

記 入 日 2014 年 1 月 10 日

1. 概 要

実践団体名	くにたち地域外国人のための防災連絡会 (KUNIBO)		
連絡先	連絡係：山崎由紀子 Tel/Fax: 0 4 2-5 7 4-4 0 5 2 KUNIBO ホームページ：http://www.hp-ez.com/hp/kunibo/		
プランタイトル	くにたち地域外国人のための防災対策		
プランの対象者※1	全ての人々	対象とする 災害種別※2	災害全般、その他

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

公民館が外国人のための防災の情報の拠点と位置づけられていることから、外国にルーツを持つ人々が日本語を学ぶと同時に防災についても学ぶことが出来、自然体で防災意識を高め、助けられる側から助ける側に成長していくこと。防災をツールとして共に学び、実践して行く中で、人々と繋がり、その延長線上に共生があり、結果的に「共助」の基礎が出来ている地域社会を目指している。大学町という特性を生かし、一時滞在者であっても留学生を協力者として育成し、日本の現状を知らしめ、あるいは、これを彼たちの国において活用のヒントに繋がることを視野に入れた研修、実践を立案し、地域住民、大学、行政が一体となって防災、外国人との共生につなげていくことを目的とする。

【プランの概要】

様々な角度から人々の結びつきを作る企画と実践

1. 防災ステッカー作成
2. 携帯可能な緊急カードの作成
3. 2ヶ月に一度の防災関係、および外国人の生活に関連する講演、および実践研修
(例：普段持っている便利なグッズ、災害時の口腔ケア、簡易トイレ作りなど)

【期待される効果・ここがおすすめ！】

1. 人々が知り合うこと（公民館を中心に全ての住民、行政、国の機関など）により連帯感を持ち、必要な時には「共助」が出来る基盤が出来ている地域社会。
2. 現実を見聞きすること、体験学習により、防災を知識だけでなく体験として学ぶこと。
3. 外国人にとって、地震や台風国として、日本に住む意味を再確認してもらえること。

2. プランの年間活動記録 (2013年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	外国語支援ボランティアの登録開始 第一回研修を兼ねた講演	3月末、一橋大学留学生に外国語ボランティアとしての登録依頼	2013.4.27-外国語支援ボランティア研修1 防災食の体験、町の歴史、震災の痕跡について、日常的に持ち歩いて便利な防災グッズなどについて研修
5月	1. 外国語支援ボランティアの実践 2. ステッカー作成準備 3. 定例会	1. 大学、防災課、公民館との相互に準備を行う 2. ステッカー企画準備活動開始、担当者と意見交換	2013.5.29-外国語支援ボランティア研修2 立川防災館において、煙、起震車などの体験、外国語支援ボランティアが通訳ボランティアを実践
6月	定例会企画 講演「災害時の口腔ケア」	講師との打合せ(虫歯予防デーに合わせ6月に企画)、ポスターの準備	2013.6.26 講演「災害時の口腔ケア」 大妻女子大学講師 秋山先生に避難所においても口腔ケアの重要性とHow toの指導 特に高齢者にとって口腔ケアは命に関わるケースがあることなどを学ぶ
7月	1. 定例会企画 「防災体験学習 「作ってみよう!段ボールトイレ」 2. 携帯災害カード検討 3. 防災教育プログラム 4. 定例会	1. 企画の打合せ 資料の調達 防災課、公民館との打合せ 2. 掲載内容の確認、言語について、連絡先について 3. 教育プログラム資料収集、骨子作成	1. 2012.7.31 大震災の現実から、自分たちで出来ること-簡易トイレ作り、実践を通して行う 2. 外国人は比較的若い年代が多いこと、そのため、通信による緊急情報を取得するケースが多いと外国人住民の意見から、名刺サイズ携帯災害カードを作成準備
8月	1. 公立学校で行われた地域避難訓練に参加	1. 各学校の避難訓練参加 2. 携帯災害カード内容確認 3. ホームページ開設のための学習と準備	1. 2013.8.25 国立市立の学校で行われた防災訓練: 応急処置、AED、けが人を運ぶ体験、防災食作りなど 2. 携帯災害カードに盛り込む内容を確認 3. KUNIBO ホームページ開設
9月	1. 外国人キーパーソンによるアイデア-携帯災害カード試作 2. KUNIBO 特別企画 講演と意見交換 3. 定例会	1. 特別企画について公民館と共に打ち合わせ 2. KUNIBO 特別企画につき講演者と公民館と打合せ 3. 防災ステッカー改訂版試作の内容の読み合わせと確認	1. 2013.9.3 公民館日本語講座から派生した「おしゃべりサロン」参加者と共に携帯災害カード試作 2. 2013.9.17 講演 東村山市の多文化共生相談員、多文化共生マネージャーの杉田理恵さん 外国人住民が抱えている諸問題を知る
10月	1. 防災教育チャレンジプラン中間発表 2. KUNIBO 定例会企画 気象庁 3. 防災教育プログラム	1. 中間発表の準備 2. 気象庁、公民館との打合せ 3. 防災教育プログラム冊子として、中間発表に提出	1. 2013.10.6 法政大学 防災教育チャレンジプラン中間発表 通訳ボランティアを含む大学関係外国人4名が参加 2. 2013.10.30 気象庁、辻川氏講演 「命を守るために知って欲しい!特別警報」
11月	1. 防災連絡会の活動の対象者が多い日本語学習者のスピーチを聞く 2. 体験学習ツアー、東都・あきる野市合同総合防災訓練に参加 3. 東京都在住外国人支援のための合同連合会議参加 4. KUNIBO 定例会企画 簡単にできる防災食への挑戦 5. 定例会	1. 活動PRチラシの作成 その他必要な手伝い 2. 参加への呼びかけ、打合せ 3. 参加者への呼びかけ、定例会企画の参加呼びかけ 4. 講師および会場の調整 調理に必要な器材の確保、材料購入など	1. 2013.11.9 日本語学習者のスピーチの会において防災連絡会のPR 2. 2013.11.23 一橋大留学生、外国人研究員と共に参加 各種災害に備えを学ぶ。水圧の力を実際に体験、その他 3. 2013.11.26 在住外国人の方との情報交換について 「やさしい日本語での情報交換」を学ぶ 2013.11.27 講師: 上原ハルミさん-ポリ袋クッキング- 長期避難生活を予測し、出来るだけ満足する食事を取れる方法としてポリ袋クッキングを学ぶ
12月	改訂版ステッカー	内容の取捨選択 1月企画の準備と打合せ チラシ、ポスター作り	ステッカー、最終段階の構成に入る
1月	KUNIBO 定例会企画 講演と応急処置実践	講師との打合せ 公民館との打合せと資料提供依頼	2014.1.18 予定 前半の企画: 一橋大学ビジティング研究員のカール氏の講演「地震国、日本とフィリピン-その時、子どもと外国人は?」 後半の企画: 日赤奉仕団の指導による三角巾の有効活用-怪我、生活用品として
2月	改訂版ステッカー完成	中、韓、英、日本語版改訂ステッカー最終確認	改訂版ステッカー配布
3月	1. KUNIBO 定例会企画 震災時の食事を体感 2. 公民館と共催で防災訓練 3. 一橋大オリエンテーション参加	1. 震災当日から日を追って、防災食を考える 2. 公民館、公利連と共催 講師選択打合せ等の予定 3. 一橋大オリエンテーションに参加打合せ。 PRチラシ、ポスター作成 配布グッズの調達等	1. 2014.3.26 予定 震災当時、2日~3日目等の食事疑似体験 2. 2014.3.29 予定 公民館合同避難訓練(土曜日、日本語学習者) 3. 2014.3.27 予定 一橋大学2014年度新規留学生のオリエンテーションに参加。KUNIBOの活動紹介と「外国語支援ボランティア登録」受付

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1】※3

タイトル	外国語支援ボランティア研修-1～2、講演「国立市の成り立ち、過去の災害状況」「普段から用意しておく便利グッズ」、「災害時の口腔ケア」、「作ってみよう！段ボールトイレ!」、「共助に繋がる*多文化共生*」、～命を守るために知って欲しい「特別警報」～など
実施月日（曜日）	2013. 4. 27(土)～2014. 1. 18(土)
実施場所	国立市公民館、立川防災館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：河津、中田、山崎氏 名：関 義孝 (国立市防災課係長)、立川防災館職員、秋山 恵美子 (大妻女子大非常勤講師)、辻川 (気象庁職員)、杉田理恵 (東村山市、多文化共生マネージャー)、小原 (日赤国立中地区) 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	午後1時～午後3時
プログラムのカテゴリ、形式※4	2. 講習会・学習会・ワークショップ、13. 体験学習、16. 避難・防災訓練
活動目的※5	2. 防災に役立つ資料・材料づくり、3. 災害に強い地域を作る、4. 災害を想定した訓練、5. 災害を疑似体験、6. 防災に関する知識を深める、8. 防災意識を高める、9. 災害対応能力の育成、10. その他
達成目標	新しい企画、関係者の顔合わせと防災関係の研修、地域内の人々が知り合える機会、外国人だけでなく誰でも必要と感じる企画
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	国立の街を知り過去の震災や災害を知り、現在の状況を学ぶ。立川防災館のプログラムにより火災、地震の疑似体験、災害時に必要なものを共同作成する中で、人との関係を強化する。在住外国人の実態を知り、共に助け合える関係作りを模索
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	関係団体、個人を講師として依頼 防災食、パソコン、スクリーン、プロジェクターの貸出依頼 記録としての写真撮影、チラシ、ポスターなど
参加人数	各企画：15名～30名
経費の総額・内訳概要	講師謝礼¥20,000、食材、食器など：¥20,000、交通費：¥10,000
成果と課題	【成果】国立の町の全景、地形等を知る機会、地震だけでなく水害、火山爆発などさまざまな災害の可能性を感じ取る、防災食、防災関係全般を知る。他の国の災害を知り、日本レベルでなく地球レベルの災害に目を向ける機会を作る 【課題】全員の外国語支援ボランティアが集まらなかった
成果物	公民館を会場に、社会教育の観点から防災を学び、体験を通して、実技を習得できたこと

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：2】※3

タイトル	携帯災害カード
実施月日（曜日）	2013. 9. 3（火）（2013. 7月より資料収集、試作開始）
実施場所	公民館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：河津、中田、山崎 氏 名：張 涛さん 所属・役職等：地域外国人住民のキーパーソン
所要時間または 「コマ数×単位時間」	14:00~15:30（2013. 7月作成開始からの総時間数：20時間）
プログラムの カテゴリ、形式※4	13. 体験学習
活動目的※5	2. 防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	名刺サイズの中に必要な内容を盛り込めた
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	改訂版ステッカーが家に中に常備しておくものに対して、外出先で災害に見舞われた時、災害に関する最低限度の情報をしり、自助に繋げる
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	用紙、パソコン、パウチ材料、パウチ熱加工機など
参加人数	10名
経費の総額・内訳概要	材料費 30,000 円、加工費 20,000 円
成果と課題	【成果】若手の外国人住民キーパーソンのアイデアであること。 若い人々の動向に合う防災情報であること 試作はいろいろな人が参加している外国人の日本語講座の派生した会「おしゃべりサロン」で共働作業できたこと 【課題】日本語での表記のみであること その他の言語の必要性があるかどうかは今後の検討課題
成果物	財布にも、手帳にもどこにでも収まるサイズの携帯災害カード

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	[いざというときの講座]「災害時でも美味しく食べよう！ポリ袋クッキング」
実施月日（曜日）	2013. 11. 27（水）
実施場所	公民館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：中田、山崎 氏 名：上原 ハルミ 所属・役職等：ハルミクッキング主宰者
所要時間または「コマ数×単位時間」	13:00～15:00
プログラムのカテゴリ、形式※4	2. 講習会・学習会・ワークショップ、13. 体験学習
活動目的※5	5. 災害を疑似体験、3. 災害に強い地域を作る、9. 災害対応能力の育成
達成目標	身の回りにある材料を使い、より普段に近い食事が取れる目処が見え、災害という困難な中から少しでも普段に近づけることを発見
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	1. ポリ袋クッキングの解説を聞くことからスタート 2. 広報誌へ広告、チラシ、ポスターの準備 3. 食材、器具、調理材料の調達の打合せ 4. 公民館の室内でカセットコンロ使用の許可申請 5. 必要材料全てを調達 6. レシピの準備（豚肉を食べない人のことも話し合う） 7. 当日の準備と関わった人々から感想を聞くなど
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	ポリ袋クッキング講師への依頼 食材、調理に必要な器具類全般、試食のための紙皿、紙コップ、箸、スプーンなど
参加人数	10名
経費の総額・内訳概要	講師料:20,000円、食材、器材、試食用食器類:10,000円、広報関係:3,000円
成果と課題	【成果】 トマトリゾット、ジャガイモのカレースープ、白飯の三種類の味の違う料理を一つの鍋で作れることを知る、味も美味しい、調理の後片付けも簡単、栄養を逃がさないなどの長所を確認 【課題】 多くの人が知って損をしない体験学習だったが、人の集まりがいつもより少なかった。時期的なこともあり、秋の良い日々には人々は屋外で楽しむのかもしれない
成果物	災害時というくらいイメージがこの食事で払拭されたこと、どんなときも頑張れると実感した

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多くの人々に関心のある防災、減災の企画を見いだすこと。 2. 企画が多くの方のためになると思っても意外に反応が低いことがある。 3. 当会では奇数月に「いざというときのための講演会」と銘打って2ヶ月に一度行っているが、2013年度は奇数月ではなく偶数月に変更になった。
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企画には多くの参加者を呼び込みたいと主催者側は誰でも思うが、3.11も遠くになり、災害に対する気構えが薄れていっていることは否めない。それでも、多くの人々に喚起させたい気持ちがあり、チラシ、行政の広報、ホームページとさまざまな手を使い広報活動するが、なかなか人を集めるのは難しい。 2. 人集め自体が防災の大きな目的ではないかと感じている。紙媒体ではなく、知人から知人へと企画を伝え、参加を促すこと自体が、いつかは共助に結びつく人との繋がりだと考えて努力をしている。
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>企画の立案、講師の選択と依頼、会場の確保などの手はずより、参加してくれる人集めに苦慮している。</p> <p>一橋大学の留学生を扱う国際課との連携で、多くの留学生が特に災害時の「外国語支援ボランティア」として登録をしている。その支援ボランティアを使う機会があっては困るが、普段、それほど多くの場面で活躍してもらえないことにジレンマを感じる。それでも、研修を行う必要があり、日程の選択が一番の悩みである。研修を受ける外国人支援ボランティアができるだけ多く参加できる企画と日程、時間帯など、特に配慮しなければならなかった。また、若手住民の参加がきわめて少なく、殆どが高齢者の域にいる人々の集まりになりがちである。老若男女、子ども、外国人住民が出会える企画を今後も考えていきたい。</p>

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	公民館（社会教育）	社会教育を行う公民館と会が発足当初から協働して、防災、減災の企画に協力をしてもらっている。特に、公民館主催「生活のための日本語講座」受講者である外国人住民への企画参加呼びかけを公民館が積極的に協力
保護者・ PTAの組織		
地域組織	国立地域には国際交流グループが数団体あって、その団体との協力関係を持ちながら、企画を進めている。 日赤、国立支部	講演、講習に参加協力 三角巾を使って行う応急処置を昨年に引き続き担当
国・地方公共団体・ 公共施設	1. 一橋大学 2. 一橋大学国際教育センター、海外留学生相談室、国際交際交流会館 3. 国立市、生活コミュニティ課 2013年度より	留学生の外国語支援ボランティアに協力 （オリエンテーションに参加） 留学生寮の国際交流会館と協力し、今後、応急処置、その他の災害、減災プログラムを行って行く話し合いを持った。 市役所外国人相談窓口 に外国語支援ボランティアの提供
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	生活クラブ生協	生協のメンバーの上原ハルミさんにポリ袋クッキングを依頼。今後も協力体制をとることを話し合った。
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	一橋大学ビジティング研究員との連携	フィリピン人研究者で、災害と子どもをテーマに研究している。研究について話しを聞く予定 (2014/1/18)

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>1. 昨年に引き続き、2ヶ月に一度の講演会、研修や東京都の会議に参加して、地域の人々、地元大学、地元行政、多摩地域の行政から学ぶなどの連携が少しできたこと。当会の活動が社会教育の現場では座学が主流であった公民館に館を挙げて防災訓練に取り組むなど、災害、減災に対しての体験学習を取り入れる等の影響を少なからず与えたこと。</p> <p>2. 大学町である国立市とその住民という、いわば、国、地方行政、地域住民の三者での協力体制がとれていること、特に災害、減災について、少し、影響を与え始めたこと。</p> <p>3. 大学が留学生を地域に外国語支援ボランティアとして協力させてくれたことが、留学生寮である国際交流会館との前向きな連携企画の可能性について話し合いができたこと。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>反省：人々にとって、防災、減災につて学びたい企画の立案 主に長期滞在留学生が登録している「外国語支援ボランティア」の 災害時以外の活用法とその企画</p> <p>感想：デフレ脱却と経済のことばかりの報道が大きくなるのに連れて、阪神淡路大震災の陰どころか、最近の 3.11 でさえ、人々は忘れ去ろうとしているように感じる。3.11 の後処理、福島県の原因事故の処理などを思うと、「いざというときのために」は忘れてはならないと思い、企画を継続している。</p> <p>課題：あまりにも高齢化が目立ち、若い参加者を増やすことが大きな課題である。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>1. 震災時、一日目から1週間程度、順を追って食を考えてみる 2. 改訂版ステッカーの完成、配布 3. 公民館と共働で防災訓練 2014年度 1. 一橋大学新規留学生の外国語支援ボランティア参加呼びかけ 2. これまでの通り奇数月の定例会に合わせて防災関係学習会 3. 冊子「いざというときのために」改訂版作成準備 4. 新しい企画の立案（地域防災カルタ→日本語学習教材を兼ねる） 5. やさしい日本語（日本語で情報伝達するためのやさしい日本語とは） 6. 外国語支援ボランティア研修実施 7. 地域の人々との接点を持つ企画づくり</p>

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

いかなる災害が起こっても、多くの人が協力し合い助け合う気持ちがあれば、人的被害は減少すると考えている。そのための人と人の繋がり（絆）の大切さを忘れないで、自然に一人が交わる状況、環境を作っていくことが当会の大きな目的である。「外国人のための---」と謳ってはいるが、外国人だけを助けるためだけに活動を行っているのではない。お互いに協力できる関係作りを模索しているのである。

日本人は昔から防災に関して、家族から語り継がれている知識があるが、仕事、結婚、その他の理由で、地震国、日本にご縁があって住むようになった外国をルーツに持つ人々にとっては、とても恐怖を感じる自然災害だと思う。言葉の障害もあり、異国の地で生活をしていく中で、まずは安定した生活の構築が第一であると思われる。そのため、ただ防災だけに特化して話題を広めていってもあまり、関心を集めることができないものと思われる。まずは外国にルーツを持つ人々のことを良く知ること重要で、災害と直結しない企画も含め、集まる機会をできるだけ多く作り、そこで知り合う地域の人々との繋がりを作り、その人にとって日本で住むための人材作りに発展させてもらいたい。小さな企画であっても継続される企画が「いざという時のために」必要だと感じている。今後もさまざまな団体の協力の下、活動を継続させていきたい。



(自由記述: 1/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 2/3)

A large, empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 3/3)